

能登から考える

地域の建築とその未来

下記より HP にアクセスいただき
お申し込みください。ご登録の
メールアドレスに zoom 情報をお送りします。
<https://galleryiha.wixsite.com/galleryiha>



現在、企画中の地方レクチャーシリーズ（キュレーション：藤野高志、池田暉直）では、地域の様々な問題と建築の役割を掘り下げたが、今回は、2024 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震に焦点を当てる。現地の実情を石川県の復興委員を務め、今も前線で調整にあたっている小野田泰明をゲストキュレーターとして深掘りする。能登半島を題材に日本の建築の未来と希望を考える全2回の企画である。



長谷川 逸子

静岡県生まれ。関東学院大学、東京工業大学を経て、1979 年長谷川逸子・建築計画工房設立。早大、東工大、九州大など非常勤講師、米国ハーバード大学客員教授。2001 年ロンドン大学名誉学位。

第1部 3月3日(月) 18:00～

豊島 祐樹 × 山本周

復興の実態と建築の未来 - 若い建築人の視点から

復興の未来を見据えるべく、初回は、地元の若手建築人にレポートしてもらう。発災前、それぞれに金沢の町家再生に関わった経験を活かし、能登半島で傷ついた民家再生に奔走する若手建築家の活動を紹介する。次世代の建築人が、復興で何を考え、建築の未来をどう見ているのか。若手の発話を足掛かりに、これから、建築に何が可能かを双方向で議論したい。



豊島 祐樹 | 金沢大学融合研究域 講師・博士（工学）

1984 年生まれ。金沢大学、金沢美術工芸大学大学院を修了後、黒川雅之建築設計事務所にて国内外の建築設計、インテリアデザイン、プロダクトデザインに携わった。並行して歴史的建築物の再生と活用に関する研究を行い、博士号を取得。「地域資源を活かした環境デザイン」をテーマに分野横断的な活動を行う。



山本周 | 山本周建築設計事務所代表

1985 年新潟県生まれ。金沢美術工芸大学大学院 修了。長谷川豪建築設計事務所。2015 年に独立し、2017 年に金沢に移住。設計の仕事の傍ら、金沢市の住民が作り出した風景を収集する活動『金沢民景』を主宰。能登半島地震以降、住宅相談フォーマットをいち早く立ち上げる。現在も能登半島の各地の復興に奔走。

第2部 3月26日(水) 18:00～

後藤 寛 × 嘉門 佳顕

能登の復興はなぜ難しいか - 多層的な視点で捉える

二回目は、過去と現在、建築と社会といった多層的視点から復興を考える。最初のプレゼンターである後藤は、東日本大震災の最大の被災地石巻市で復興住宅課長・復興事業部長など要職を歴任し、現在は派遣職員として輪島市復興の最前線に立つ。東日本大震災との違いや能登で何を考えたかなど、地に足の着いた相対化を行っていただく。二人目の嘉門は、建築教育を受けながら、様々な経験を積んだ後、地元の石川県に戻って、難しいパイロットプロジェクトを手掛けた後、生活再建業務の前線に投げ出された人材である。語ることの難しい復興の光と影を包括的に議論する回としたい。



後藤 寛 | 輪島市派遣職員・元石巻市復興事業部長

東日本大震災後、市復興事業部長や基盤整備課長を務め、様々な都市計画者や建築人との共同を取り仕切る。能登半島地震の発生を受けて、輪島市への派遣を志願。復興の幹部から、一兵卒に戻って、過酷な最前線でのインフラや施設の災害復旧に携わっている。



嘉門 佳顕 | 石川県能登半島地震復旧・復興推進部生活再建支援課
石川県生まれ、東京大学建築学科卒業、安藤忠雄建築研究所勤務、外資系エンターテインメント企業勤務を経て 2014 年に石川県職員。独自の空間構成で注目される石川県立図書館事業を発注側から強力に牽引。令和 6 年能登半島地震発災以降、主に被災地の地域コミュニティの再建に尽力。

復興の遅れが強調される能登半島地震だが、復興のパラダイムシフトのもと、現場では様々な意欲的活動が行われている。今回は、建築人たちによる、あまり紹介されないが、重要な活動や思念を紹介しつつ、豊かな文化を持ちながら人口減が急激に進む能登半島の復興から、日本の未来と建築の役割について考えたい。

(小野田泰明 + 池田暉直)

小野田 泰明

1963 年石川県生まれ。東北大学大学院工学研究科教授、石川県能登地震復興アドバイザー、能登半島地震復興建築人会議。

池田 暉直

1995 年群馬県生まれ。筑波大学芸術専攻修了。2019～24 年生物建築舎。2024 年～東北大学大学院工学研究科助手。能登で活動。



NPO 建築とアートの道場 2025 Winter Lecture Produce：長谷川逸子